知事のひとこと vol.15

奈良県知事
荒井 正吾

奈良県では、四季折々に文化のイベントを実施してきています。県民の皆様に、何時でもまちに出でイベントを楽しんでいただき心身ともに元気になっていただきたいとの願いを込めています。6月に開催したムジークフェストならの中でも、多くの老若男女の県民の方々に声を掛けていただき、ありがたく嬉しいことでした。また、このようなイベントは奈良に来られる観光客の方々にも人気があります。奈良はいろいろなイベントをしているので何時行っても楽しいなと思っていただき、観光客の落ち込む時期がないようになることを願っています。

季節の良い秋に、今年は奈良で初めての国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭を開催します。一体開催は全国初の試みです。3カ月間開催するこのお祭りにより、奈良の持つ文化の力を来訪者の方々に感じてもらい、また障害のある人もない人もともに元気になっていただけるよう願っています。

人権コーナー

毎月11日は人権を確かめあう日

関わろうとすることから

暑い夏、結婚式を挙げる人は比較的少ないとか。

結婚に関して、平成21年の県民意識の調査によると、「家柄など、本人の責任ではない理由で結婚を反対すること」に対し、「こうした考えをなくしていかなければならない」とした人が6割を超える一方で、自分の子どもの結婚相手が望ましい人物であったとしても、同和地区出身者であることを理由に「親としては反対」「考え直すように言う」と回答した人が6割を超えています。「いけない」とわかっていることに対し、「できることならかかわりたくない」とする意識がみてとれます。

実際、「平成28年度県内差別事象調査」によると、婚姻や転居に際し、そこが被差別部落であるかを役所等に問い合わせる事象が、今もなお発生しています。そのほとんどの場合、その場で指摘を受け、自身の行為の差別性に気付き、後悔されたようです。

昨年12月、「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。今、なぜこの法律が作られなければならなかったのか。その背景にあるものを正しく知り、一人一人が自らの意識と向き合い、積極的にこの問題と関わることが大切ではないでしょうか。

今月のポスター

大和高田市立片塩中学校 2年生
姫嶋（ひめしま） 結（ゆい）さん

今月の標語

ありがとう
そのひとことで
ぽかぽかに

川上村立川上小学校 2年生
三宅（みやけ） 叶恵（かなえ）さん

※学校名・学年・氏名は発表時のものです。

クイズ&プレゼント

○に当てはまる数字を答えてください。

Q 「国文祭・障文祭なら2017」は何月からの3カ月間開催?

A ○月

ヒントは4ページ

正解者の中から抽選で
国文祭・障文祭グッズを10名にプレゼント!

締め切りは8月31日（消印有効）

6月号の答えは“準備”でした。応募総数631件。

ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、「県民だより奈良」の感想(良かったコーナー・取り上げてほしい話題・改善点など)を記入して、〒630-8501(住所記入不要)奈良県広報広聴課へ。
www.pref.nara.jp/30222.htmからも8/1以降応募できます。
※個人情報は、プレゼントの発送以外には使用いたしません。